

## 第 36 回日韓技術士会議にあたって

社団法人 日本技術士会  
会長 都丸 徳治

第 36 回日韓技術士会議の開催にあたりご挨拶を申し上げます。

本日は韓国技術士会 李 桓 範 会長はじめ多くの技術士の方々が、はるばる沖縄県まで来ていただき、心から歓迎いたします。また、ご来賓として地元沖縄県から稲嶺恵一知事に、国からは沖縄総合事務局から竹林義久局長のご臨席を賜り誠にありがとうございます。

沖縄県は、東西 1,000km、南北 400km に及ぶ海域に点在する多くの島々からなっており、我が国では唯一の亜熱帯地域で、特有の自然環境を有しております。古くは琉球王国として栄え独自の政治・文化を築いていました。地理的に中国をはじめ韓国など東南アジアの国々と近いことから、これらの諸国との交流が盛んであり、それを通じて培われた伝統工芸や芸能、お祭や風俗など非常に多彩な文化を有しています。皆様も滞在中に本土とは違った新しい発見があると思います。

さて、今回の会議のテーマは、「社会開発における技術士の役割—ものづくりの心」です。今日、わが国は 1990 年代の長い不況から脱し 2002 年から景気拡大を続けています。その原動力となっているのはものづくりです。プラズマディスプレイ、液晶、デジカメ、ハイブリッドカーなどです。技術とものづくりが今日の企業経営の好調をもたらしているといえます。わが国では第 3 期科学技術基本計画が本年 4 月よりスタートいたしました。その中心施策は「ものから人へ」ということで人材の育成に重点が置かれています。資源に乏しく、人口の減少と少子高齢化の時代を迎えているわが国は、科学技術創造立国を目指すことにしていますが、その中心は優秀な人材の育成・確保であります。もちろん技術士はその中で主導的な役割を果たさなければなりません。ものづくりの原点は人材の育成であると思います。

一方、近年わが国では大企業による不祥事が起こっていますが、その原因が技術に起因していると思われるものがしばしば見うけられます。技術がこれほどまでに発展した世界にあっては、技術の適用の良否が我々の社会や国民に与える影響を大きく左右いたします。我々もその重要さを真剣に受け止めなければなりません。また、今年も自然の猛威が各国、各地を襲いましたが、それらによる被害を最小限にとどめることができるのも技術の力です。技術と技術者の倫理の重要さがこれほどまでに認識されたときはありません。

本日のような国境を越えた会議により技術を共有することにより、国民が安全で安心して暮らせるように、そして社会・経済の発展と繁栄がもたらされますように、プロフェッショナルとしての技術士が人類の平和と繁栄に少しでも貢献できればと考えています。

最後になりましたが、今回の会議開催にあたり、このように盛大なかつ充実した会議を準備していただきました地元・沖縄県技術士会の皆様および日韓両国の実行委員会の方々のご努力に対し心から感謝申し上げます。

日韓技術士会議と本日ご参集の皆様方の益々のご発展とご健康を祈念しまして、簡単ですが私の挨拶とさせていただきます。